

リジェネラティブ・オーガニック カンファレンス 2026

～水田の公共的価値をどう捉え、どう社会で支えていくか～

■ゲスト情報

【写真】



- 門間 雄司
- 兵庫県豊岡市長
- 2005 年から豊岡市議会議員を 3 期 12 年、2016 年から兵庫県議会議員を 3 期 10 年務めるなど、長年にわたり地域の発展と県政の推進に尽力する。2025 年 5 月に豊岡市長に就任。「誇りと魅力が息づくとおか」の実現を目指し、市民が誇れる魅力あふれる豊岡の未来に向けた舵取りを行っている。

【写真】



- 山下 正明
- たじま農業協同組合 代表理事組合長
- 1983 年に JA たじま入組。2017 年に常務理事（営農生産・畜産担当）、2020 年に代表理事専務を経て 2026 年に代表理事組合長に就任。ブランド米「コウノトリ育むお米」の生産・販売の拡大や学校給食への導入など、生産者・行政・販売先と連携して安全・安心なお米の普及拡大に取り組んでいる。

【写真】



- 平峰 拓郎

- 株式会社坪口農事未来研究所 取締役
- 豊岡市で昭和 50 年頃から続く米農家。平成 26 年に亡き義兄から事業を引き継ぎ、令和元年法人化を機に IT 業界から本格的に転身。気候変動による危機感から環境配慮型のコウノトリ育む農法やソーラーシェアリング、リジェネラティブ・オーガニック、自然共生サイト認定等に取り組みながら 未来の農業を模索している。

【写真】



- 渡辺 黎也
- 倉敷芸術科学大学生命科学部環境生命科学科 助教／兵庫県立大学 客員研究員
- 博士（学術）。専門は止水性水生昆虫類の生物学・保全生態学。いであ（株）を経て兵庫県立大学大学院に進学し、2025 年度から現職。兵庫県豊岡市で水生昆虫類の保全に効果的な休耕田ビオトープの管理手法や立地条件を研究。現在は水田内水路の配置・規模と水生動物の退避機能との関係も検証している。

【写真】



- 久保田 康裕
- 株式会社シンク・ネイチャー 代表取締役 CEO
- 博士（理学）。生物多様性科学の研究成果を社会実装するため、2019 年琉球大学在籍時「シンク・ネイチャー」を創業。自然関連ビッグデータと AI を融合して「自然の価値」の可視化事業を展開。ビジネスにおける気候と自然を統合した事業戦略の策定・実装、自治体の自然資本経営の支援などを推進している。

【写真】



- 竹田 麻里
- 東洋大学 食環境科学部 フードデータサイエンス学科
- 農業・資源経済学を専門とし、農地や水資源など、食を支える自然資源を持続的に管理する社会の仕組みを研究。近年は、生態系サービス支払いや倫理的消費、農業環境政策を研究している。現地で実践を重ねる方々から多くを学び、その積み重ねに支えられて研究が続いている。

【写真】



- 神林 悠介
- 農林水産省 大臣官房 みどりの食料システム戦略グループ長
- 千葉県出身。東京大学卒業後、2005年に農林水産省に入省。過去、農地政策、林野、家畜伝染病対策、食文化政策などを担当。また、内閣府経済財政運営担当、復興庁、外務省在フランス大使館等に出向経験あり。フランス国立行政学院(ENA)に留学。フランス政府より農事功労章シュバリエを受勲。2026年7月から現職。

【写真】



- 近藤 勝宏
- パタゴニア日本支社 インパクト部門ディレクター
- 1995年パタゴニア入社。店舗運営やビジュアル・マーチャンダイジングの立ち上げ、マーケティング部門でのブランド戦略を経て、2016年に食品事業の日本展開を主導。2025年から現職として、食と農、水域・陸域の回復や環境団体支援を通じ、気候危機の解決とネイチャーポジティブの実現に取り組む。

【写真】



- 木村 純平
- パタゴニア日本支社 インパクト部 リジェネラティブ・オーガニック リサーチ担当
- 2020 年パタゴニア入社。リジェネラティブ・オーガニックを指針として、農地管理や農法、農業の国内における検証と推進を担う。リジェネラティブでオーガニックな農業経済システムの形成を目指しており、気候風土や歴史伝統に根ざした国内農業の発展への貢献を通じて、パタゴニアのミッション達成を目指す。